

内視鏡検査および治療が さらに充実します

消化器内科部長 東野 健医師

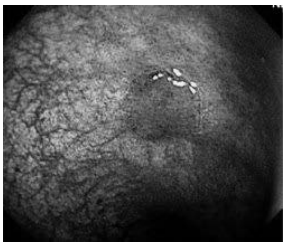
4月から城山病院消化器・外科センターに消化器内科を担当する3人の医師が赴任し、東野医師を含め4名体制となりました。今まで以上に患者さんを受け入れることができるようになり、また、最新の内視鏡機器を導入したことにより、患者さんの身体的負担も軽減することができまます。先月に引き続き、東野医師に話を聞きました。



痛くない、苦しくない内視鏡検査

高精度検査が可能な NBI

NBI (Narrow Band Imaging) は狭帯域フィルター内視鏡と呼ばれ、消化管内視鏡の分野で開発された新しい内視鏡技術です。がん細胞は活発に増殖を繰り返すために栄養分を運ぶ血液を多く必要とし、病巣には血液が増え、表面の毛細血管や微細構造の変化で早期がんを見つけることが可能です。そのため、波長の短い光を表面で反射させ、粘膜表面の毛細血管や微細模様をきれいに映し出



NBIによる大腸腺腫の観察像例



通常光による大腸腺腫の観察像例

すのがこのNBIシステムです。

従来はがんの疑いのある部分に色素を吹き付けて内視鏡を通して肉眼で観察していましたが、NBIではその必要もなく、さらには組織を採取して精密検査をしなくても悪性度が診断できることがあります。このため、場合によっては患者さんの身体的負担および経費負担も格段に軽減することができまます。

充実した内視鏡

NBIの他に当院の内視鏡センターには食道・胃・十二指腸疾患を調べる胃内視鏡(胃カメラ)、大腸疾患を調べる大腸内視鏡(大腸カメラ)、胆膵内視鏡(ETCP)などを備えており、患者さんに楽に受診していただけるよう最新機器を導入しています。さらには検査を行う医師の技術向上にも日々研鑽を積んでいます。また、この病院の特徴として、消化器の内科医と外科医が一体となってカンファレンスを行うことでより効率よく治療を行っています。

⚠️アルコールの

飲み過ぎに要注意!!

最近とても気になることがありますので、この欄をかりて、みなさんに呼びかけまます。それはアルコールを飲み過ぎる方が非常に多いことです。これが原因で肝機能障害や肝不全などの肝臓疾患だけでなく、急性膵臓炎、アルコール性心筋症、また、非常に珍しいアルコール性筋肉症という筋肉が溶ける疾患の患者さんも診ました。不況に震災など、気分が滅入る社会情勢ではありますが、アルコール依存は社会的地位などを失う社会的破壊、家族的破壊、そして最後は自分の身体を壊す本人破壊を起こします。そうならないために次のことにご注意を。

●アルコール80グラムを10年間摂取すると70%の人が肝機能障害を起こします。

※アルコール5%のビールを1リットル飲めば50グラムの摂取量になります。

●アルコール摂取量30グラム以下の休肝日を1カ月に5日以上はとりましょう。